



BUSINESS REPORT

第90期

株主通信

2022年4月1日 ▶ 2023年3月31日



CONTENTS

- P 1 トップメッセージ
- P 3 セグメント別データ
- P 5 製品のご紹介
 - ・オリゴのおかげ
 - ・RED BEET
- P 7 当社のCSR取組方針
- P 9 TOPICS
- P 10 会社概要／株式情報
- 裏表紙 株主メモ／株主優待情報

トップメッセージ

刻一刻と変化する時代において当社は役職員一同、
明るく強い心をもって積極果敢に行動し確固たる事業基盤を
築いてまいります。

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り深く感謝御礼申し上げます。
長く苦しめられた新型コロナウイルス感染症が、感染症法上の分類において季節性インフルエンザと同じ「5類」に引き下げられました。ようやく日常生活における制約が本格的に緩和され、コロナ以前の状況に近づいてまいりました。

長きに亘りリスクと隣り合わせで対応されてきた医療従事者の皆様をはじめ、新型コロナウイルスと戦ってこられた全ての皆様に対しまして、心から敬意を表するとともに、厚く御礼申し上げます。

さて、当社第90期（2022年4月1日から2023年3月31日まで）の決算を終了いたしましたので、営業の概況につきご報告申し上げます。



代表取締役社長 木村 成克

当連結会計年度におけるわが国経済は、コロナとの共生が進展する中で、各種政策の効果もあり、個人消費やインバウンド需要にも回復の動きがみられました。一方で、ロシアによるウクライナ侵攻の長期化から、エネルギー価格や原材料価格は高止まりし、さらには米国の政策金利引上げ等による大幅な為替変動など、先行きに対する不透明感が一層増している状況にあります。

このような環境の中で、当社及び当社グループはお客様、地域社会、関係取引先、従業員及びその家族の安全と健康を確保することを最優先に、生活必需品である砂糖や、オリゴ糖をはじめとした機能性素材等の製品を、非常時においても安定して消費者の皆様にお届けすることを第一義に考え、お客様のおなかの健康に貢献する「おなかによさしい会社」として、砂糖事業及びバイオ事業の計画達成に向けて全力で取り組んでまいりました結果、当期の業績は以下のとおりとなりました。

以上の結果、当期の売上高は、27,950百万円（前連結会計年度比11.2%増）、営業利益は、622百万円（前連結会計年度比22.8%減）、経常利益は、731百万円（前連結会計年度比19.3%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は、498百万円（前連結会計年度比18.3%減）となりました。

当期の業績について

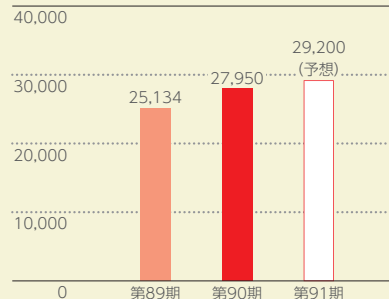
売上高	27,950百万円	(前期比 11.2%増↑)
営業利益	622百万円	(前期比 22.8%減↓)
経常利益	731百万円	(前期比 19.3%減↓)
親会社株主に帰属する当期純利益	498百万円	(前期比 18.3%減↓)

次期の見通し

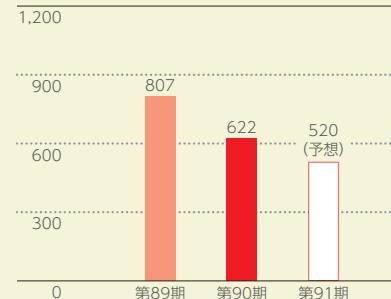
売上高	29,200百万円	(前期比 4.5%増↑)
営業利益	520百万円	(前期比 16.4%減↓)
経常利益	1,300百万円	(前期比 77.8%増↑)
親会社株主に帰属する当期純利益	890百万円	(前期比 78.7%増↑)

連結財務 ハイライト

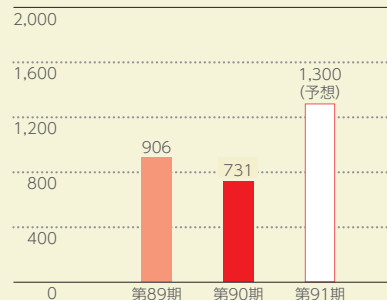
売上高 (単位:百万円)



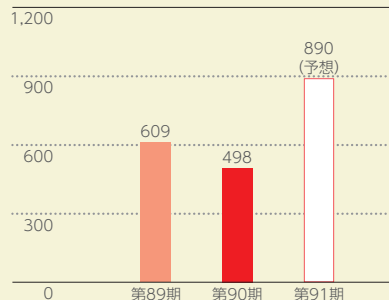
営業利益 (単位:百万円)



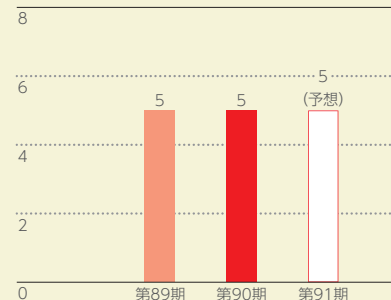
経常利益 (単位:百万円)



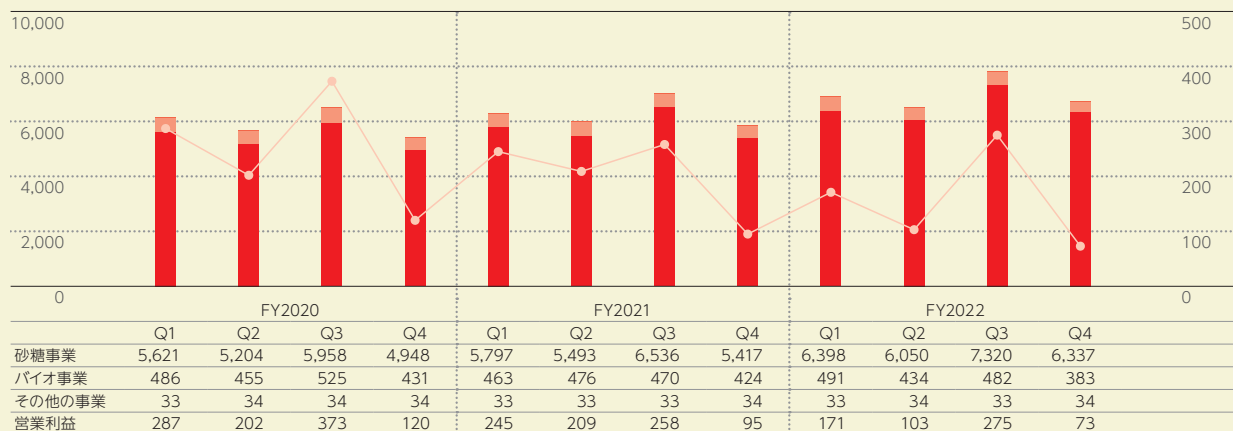
親会社株主に帰属する当期純利益 (単位:百万円)



配当金の推移 (単位:円)



事業別業績 (単位:百万円)



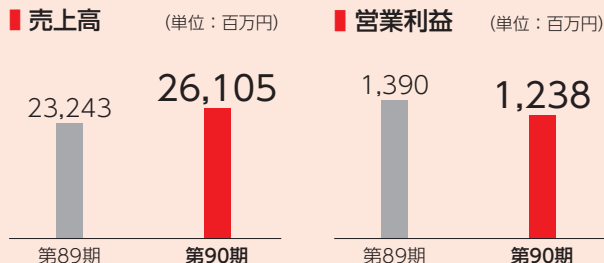
セグメント別データ



砂糖事業

売上高 26,105百万円
(前期比 12.3%増)

営業利益 1,238百万円
(前期比 10.9%減)



ニューヨーク市場粗糖先物相場（当限、1ポンド当たり）が19.42セントで取引を開始した海外原糖市況は、原油価格の高騰を受けた砂糖主要生産国ブラジルでのさとうきびを原料とするエタノール生産比率の上昇観測やインドやタイでの多雨によるさとうきび圧搾作業の遅延等が、砂糖の供給不足懸念を招き、相場は終始20セント前後の高値圏で推移しました。2月には3月限納会日に2016年以来となる22.36セントの高値をつけ、結局22.25セントで当期を終了しました。

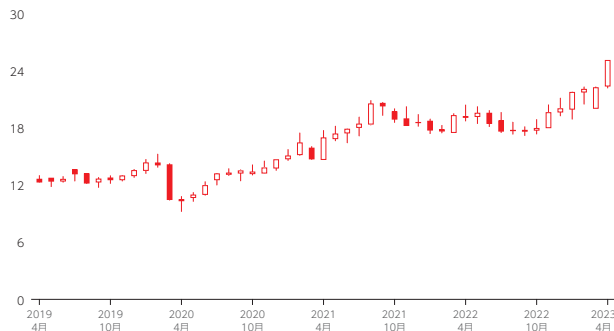
国内市中価格（日本経済新聞掲載、上白大袋1kg当たり）は、期初204円～205円で始まり、海外粗糖相場の高騰や海上運賃の上昇、急激な円安の影響を受けた結果、8月上旬に216円～217円に値を上げました。さらに2月中旬には、227円～229円に値を上げ同水準のまま当期を終了しました。

精糖及びその他糖類など国内販売のうち、家庭用製品では需要の減少傾向から伸び悩み、量販店における特売の減少等の影響も受け低調に推移しました。業務用製品については人流回復により外食産業向けや土産品等向けが復調、飲料向けユーザーへの販売も好調に推移し、売上高は前年同期を上回りました。

以上の結果、砂糖事業全体の売上高は26,105百万円（前連結会計年度比12.3%増）、原材料コスト等の上昇に伴いセグメント利益は1,238百万円（前連結会計年度比10.9%減）となりました。

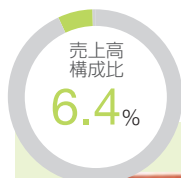
海外粗糖相場

(単位: セント)



原料糖は
輸送船に
バラ積みで
積載され
届けられます

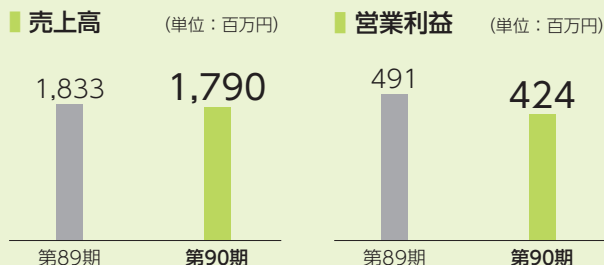




バイオ事業

売上高 **1,790**百万円
(前期比 2.3%減)

営業利益 **424**百万円
(前期比 13.7%減)



オリゴ糖部門では、整腸に対する消費者ニーズの高まりを受け、各種販促活動を強化し、新規獲得も含め拡販に努めました。この結果、「オリゴのおかげ」シリーズでは大容量タイプの売上が伸びましたが、前期においてオリゴ糖が人気TV番組で紹介されたことによる特需への反動があったことから、売上高は前年同期を下回りました。

ビーツ部門は、前期に引き続き大学駅伝における名監督原晋氏を広告宣伝に起用するなど積極的な販促活動を行い、ドリンクタイプはECサイトでの販売を中心に着実に伸張しております。

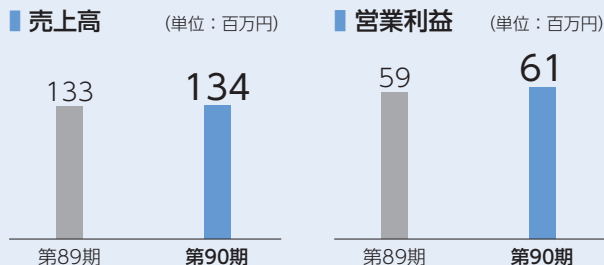
以上の結果、バイオ事業全体の売上高は1,790百万円（前連結会計年度比2.3%減）、セグメント利益は424百万円（前連結会計年度比13.7%減）となりました。



その他の事業

売上高 **134**百万円
(前期比 0.7%増)

営業利益 **61**百万円
(前期比 3.2%増)



その他の事業につきましては、ニューESRビル事務所の一部賃貸等を行い、所有不動産の活用に努めました結果、売上高は134百万円（前連結会計年度比0.7%増）、セグメント利益は61百万円（前連結会計年度比3.2%増）となりました。

オリゴのおかげ

消費者庁許可
特定保健用食品



1日
ティースプーン
2杯を目安に
(顆粒タイプは
1本)

毎日
続けることが
ポイント!

今こそ「おなかの調子」を良好に

『オリゴのおかげ』は主成分の「乳糖果糖オリゴ糖」が自分自身の腸内に棲む善玉菌の代表格である“ビフィズス菌”を効率よく増やしておなかの調子を整える「特定保健用食品」(通称:トクホ)です。コーヒー、紅茶、ヨーグルト、お料理全般にお使いいただけます。

腸活が注目される今、皆さまの毎日のおなかの健康にお役立ていただけますと幸いです。

シロップタイプ

〈300g〉

〈650g〉

〈500g〉



ダブルサポート

シリーズは
整腸効果に加え
カルシウム吸収促進効果も
認められた
ダブル“トクホ”の商品です。

携帯に便利な
スティックタイプ

顆粒タイプ

〈6g×15本入〉



機能性表示食品

『オリゴスティック』

1日に必要なオリゴ糖分がこの1本に!
カロリーは1本あたり14kcal。
旅行やおでかけに携帯便利で衛生的
なスティックタイプです!



『オリゴのおかげ』 オフィシャルサイトはこちらから

<http://www.oligo.jp/>



食生活は、主食、主菜、副菜を基本に、食事のバランスを。

● 許可表示

オリゴのおかげ

乳果オリゴ糖を主成分とし、腸内のビフィズス菌を適正に増やして、おなかの調子を良好に保つ食品です。

オリゴのおかげダブルサポート

乳果オリゴ糖を主成分とし、腸内のビフィズス菌を適正に増やして、おなかの調子を良好に保つとともに、カルシウムの吸収を促進する甘味料です。

● 摂取上の注意

摂り過ぎあるいは体質・体調によりおなかがゆるくなることがあります。
多量摂取により疾病が治癒したり、より健康が増進するものではありません。
この食品にはカルシウムは含まれておりません。(ダブルサポート)

RED BEET



当社は主力事業である砂糖・オリゴに続く“第3の柱”の構築を目指し、ビーツ事業へ参入、『奇跡の野菜といわれるビーツをドリンクにしました』を第一弾として発売して以降、『RED BEET』シリーズとして、『ドライビーツチップ』を筆頭に商品ラインナップを拡充しております。

引き続き、栄養豊富なスーパーフード「ビーツ」を日本国内認知度向上、市場拡大に向け、“使いやすく食べやすい”をコンセプトに商品開発を進めてまいります。

商品ラインナップ



ドライビーツチップ

1袋に生ビーツ約450g相当
北海道産・農薬不使用ビーツを乾燥チップに！



ビーツドリンク

ビタミンCをプラスして豊富な栄養素がギュッと詰まったビーツをドリンクに！



ビーツアイスクリーム

北海道産牛乳から作られた濃厚なミルクアイスとビーツをコラボ！オリゴ糖もプラス！

『ドライビーツチップ』（25g）

毎日手軽にとりいれやすいようにダイス状にカットし、そのまま乾燥させ、チップにしました。いつもの料理に真っ赤なビーツの栄養をプラスできます。



使い方は様々、当社WEBサイトレシピページを御覧下さい！



▶ドライビーツチップのレシピはこちらから

<https://www.ensuiko.co.jp/product/redbeet/recipe.html>

スーパーフード「ビーツ」とは

ビーツは、ほうれん草と同じヒユ科の野菜で、砂糖の原料になる「テンサイ（砂糖大根）」の仲間です。主な生産地はオランダ、ニュージーランド、オーストラリア、日本では北海道や長野県などで栽培されています。東欧でおなじみの料理「ボルシチ」には欠かせない食材で、欧米では煮込み料理やサラダ、酢漬けなどでも食されています。`奇跡の野菜、といわれるほど栄養素が豊富で、近年健康・美容食材として高い注目を浴びています。

「RED BEET」シリーズはこちらからご購入いただけます。



パールエースオンラインショップ

<https://www.okage-sama.co.jp/>



ビーツオフィシャルサイト

<https://www.ensuiko.co.jp/product/redbeet/index.html>





当社のCSR取組方針

当社は皆様の食生活に欠かせないお砂糖を中心に取扱う食品メーカーです。
サステナブルな社会の実現に向け、我々が果たすべき最大の役割は

“皆様の食生活を支えること”



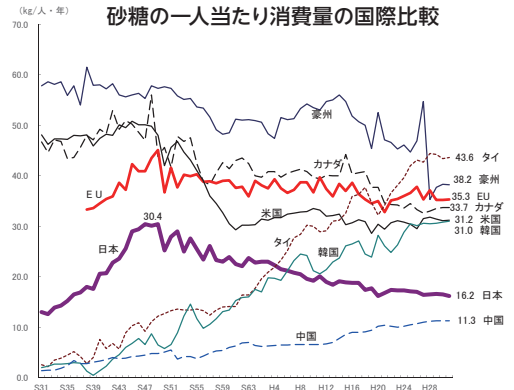
この責務を果たし続けていくためには、様々な弊害を乗り越えていかなければなりません。

! 国内の砂糖消費量が減っています!!

近年、糖質制限ダイエットなどの誤った健康法や砂糖よりも安い代替甘味料（異性化糖、高甘味度甘味料、輸入調製品）により国内の砂糖消費量は著しく減少しています。

右のグラフの通り、その減少は海外と比べても大変顕著なものとなっています。

これを放っておいてしまうと、大きな弊害が待っています。



出典：ISO「Sugar Year Book 2020」
注1：粗糖換算した周年ベースの数値である。
注2：工業用、加糖調味品に使用する砂糖を含む。

弊害 1

糖質・カロリーの不足により、頭痛やふらつき、慢性的な疲労や思考力の低下など、皆様の身体の不調を引き起こすかもしれません。



弊害 2

コメに次ぐ国内食物自給率を誇る砂糖ですが、砂糖の消費量が減ってしまうと、その原料となるさとうきびやてん菜を育てる国内農家が減ってしまうかもしれません。





対策1

砂糖への誤解払拭

「砂糖＝身体に悪い、肥満の原因」との誤解は当社のみならず業界全体として取り組むべき課題です。砂糖は摂り過ぎなければ、身体にとって大事なエネルギー源です。業界団体も啓蒙活動に注力していますが、抜本的な解決策となっていないのが現状です。これほどまでに広がった砂糖への理解を是正することは容易ではありません。教育現場などへの直接的な働きかけを行い、長い時間をかけ、払拭する必要があるかもしれません。当社においてもこうした施策を視野に、あらゆる活動を検討し、早急に進めてまいります。

対策2

調整金制度の是正（総合甘味制度の確立）

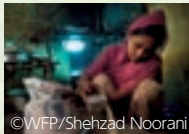
身体の大事なエネルギー源である貴重なお砂糖を、そして国内農家を保護する為に、我々精糖メーカーは長年、国内で賄いきれない分を補う為に輸入する海外原料糖に「調整金」を国へ支払い、国を通じて国内農家の保護財源を拠出してきました。その額は38年間で約2兆円にまでのぼります。しかし、この調整金制度の問題により、同じ甘味料である「異性化糖」や「加糖調製品」、「高甘味度甘味料」が砂糖よりも安く手に入れることができる仕組みとなってしまうっております。現状に則した制度の確立に向け、業界一体となって行政に強く働きかけを行っております。

当社は今後、サステナブルな社会の実現に向け、これらの課題に加え原料調達・生産・物流・販売そして廃棄にいたるまでの各段階における気候変動問題等のリスクにも対応した施策を早急に計画してまいります。

当社のCSR活動

国連WFP協会への支援

当社は国連WFP協会の評議員として、飢餓の無い世界の実現のために、国連WFPの安定した活動を行うための支援を行っております。



©WFP/Shehzad Noorani

食育イベントへの協賛

砂糖を扱う食品会社として、食育活動を行っている公益法人への賛助や料理教室等への協賛を行っております。



地域社会との共生

東京都中央区が主催する『まちかどグリーンデー』に参画し、月に1度の清掃活動を行っております。



『子ども応援プロジェクト』への参加
全国フードバンク推進協議会が主催する『子ども応援プロジェクト』に参加しました。食品ロス削減、子供の貧困問題が解決される社会を目指します。



TOPICS

大東製糖株式会社との業務提携につきまして

昨年11月10日に、「素焚糖（すだきとう）」で知られる大東製糖株式会社が当社の筆頭株主となるとともに、両社業務提携の検討を開始する旨、お知らせいたしました。その後、業務提携委員会を設置し、両社間において協議してまいりましたが、この度、同社と業務提携契約を締結することとなりました。

世界的な気候変動や、ウクライナ情勢を始めとした地政学リスクの高まりに加え、砂糖の価格調整制度の構造的な歪みをもたらす過重な調整金負担等により、砂糖業界はこれまでにない変革を迫られております。大手メーカーによる再編合理化が進む中、両社といたしましても未来に向けた新たな取り組みを進めていくべきと考えております。

両社の特色、強みを活かし、シナジーを最大限に生み出すべく協議・検討を重ねて参りました結果、以下のとおり、生産開発・販売等、多方面に亘る提携を行うこととなりましたので、お知らせいたします。

ユーモアな食品を提供し、未来を創る会社へ



新事業・新商品開発

- ・食品加工・化学分野への新たな事業展開
- ・当社「オリゴのおかげ」大東製糖「含蜜糖」等のノウハウを注ぎ込んだ新製品開発

既存事業強化

- ・両社既存事業の新たな強化・統合

販売体制強化

- ・営業販売強化の推進
- ・国内外市場への新たな進出

さとうの未来を創る社会貢献活動

- ・砂糖の新たな魅力・価値を創造し得る商品開発
- ・環境保全、地域活性、貧困対策、フードロス対策等への取り組み



事業推進本部

会社概要

CORPORATE INFORMATION

会社概要

- 商号 塩水港精糖株式会社
ENSUIKO SUGAR REFINING CO.,LTD.
- 本社 東京都中央区日本橋堀留町二丁目9番6号
03-3249-2381(代)
- 創立 明治37年2月
- 設立 昭和25年7月
- 資本金 17億5,000万円
- 事業所 糖質研究所
関西営業所
工場 / 横浜共同生産工場(太平洋製糖(株))
大阪共同生産工場(関西製糖(株))
- 関係会社 (株)パールエース、(株)パールフーズ、太平洋製糖(株)、
関西製糖(株)、南西糖業(株)、(株)ナルミヤ
- 株式上場 東京証券取引所スタンダード市場
- 主要商品 精製糖(グラニュー糖、上白糖、三温糖、液糖他)
乳糖果糖オリゴ糖
(オリゴのおかげ、オリゴのおかげダブルサポート)
サイクロデキストリン
(デキシーパール、イソエリート、デキシーエース
他)
サラシア属植物エキス末
ビーツ関連商材



株式情報

STOCK INFORMATION

(2023年3月31日現在)

株式の状況

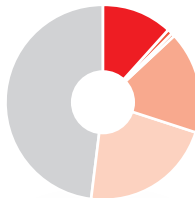
- 発行可能株式総数 80,000,000株
- 発行済株式の総数 35,000,000株
(自己株式7,696,677株を含む。)
- 当期末株主数 12,980名

大株主

No	株主名	持株数(株)	持株比率(%)
1	大東製糖株式会社	4,060,660	14.87
2	株式会社みずほ銀行	1,353,600	4.96
3	日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	1,301,100	4.77
4	三菱UFJ信託銀行株式会社	603,000	2.21
5	株式会社榎本武平商店	550,000	2.01
6	大東通商株式会社	500,000	1.83
7	東京海上日動火災保険株式会社	340,000	1.25
8	農林中央金庫	200,000	0.73
9	SMBC日興証券株式会社	167,000	0.61
10	株式会社日本カストディ銀行(信託口)	136,400	0.50

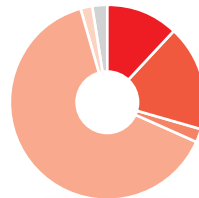
(注) 持株比率は自己株式(7,696,677株)を控除して計算しております。

所有者別分布状況



■ 金融機関	4,101千株	11.72%
■ 証券会社	361千株	1.03%
■ 外国法人等	195千株	0.56%
■ その他国内法人	5,865千株	16.76%
■ 自己名義株式	7,696千株	21.99%
■ 個人・その他	16,779千株	47.94%

所有株式数別株主分布状況



■ 100株未満	1,568名	12.08%
■ 500株未満	2,261名	17.42%
■ 1,000株未満	306名	2.36%
■ 1,000株以上	8,292名	63.88%
■ 5,000株以上	263名	2.03%
■ 10,000株以上	290名	2.23%

株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日～翌年3月31日
- 利益配当金の株主確定日 毎年3月31日および中間配当の支払いを行うときは9月30日
- 基準日 定時株主総会については3月31日
上記の他必要がある場合は予め公告して臨時に基準日を設けることがあります。
- 定時株主総会 毎年6月
- 公告・IR情報掲載URL <https://www.ensuiko.co.jp/>
- 株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内1丁目3番3号
みずほ信託銀行株式会社
- 事務取扱場所等

	証券会社等に口座をお持ちの場合	証券会社等に口座をお持ちでない場合 (特別口座の場合)
郵便物送付先	お取引の証券会社になります。	〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行 証券代行部
電話でのお問い合わせ先		0120-288-324 (フリーダイヤル) (土・日・祝日を除く9:00～17:00)
各種手続お取扱店 (住所変更、株主配当金受け取り方法の変更等)		みずほ信託銀行 本店および全国各支店 ※トラストラウンジではお取り扱いできませんのでご了承ください。
未払配当金のお支払	みずほ信託銀行およびみずほ銀行の本店および全国各支店	
ご注意	支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問い合わせ先・各種手続お取扱店をご利用ください。	特別口座では、単元未満株式の買取・買増以外の株式売買は出来ません。証券会社等に口座を開設し、株式の振替手続を行っていただく必要があります。

株主優待情報

決算期末(3月31日)現在の株主の方に対し、年1回当社製品を以下の基準により送付いたします。

対象株主

毎年3月31日現在の株主名簿に記載または記録された1,000株以上を保有されている株主様。

送付時期

毎年7月上旬に送付を予定しております。

送付先

毎年3月31日現在の株主名簿に記載または記録された住所に送付しております。

ご優待の内容

2023年は、1,000株以上当社株式を保有されている株主様に対して、当社製品「オリゴのおかげ(300g×4本)」と「奇跡の野菜といわれるビーツをドリンクにしました(100ml×6本)」(3,500円相当)をセットでお届けいたします。



創業明治37年
塩水港精糖株式会社
ENSUIKO SUGAR REFINING CO., LTD.